

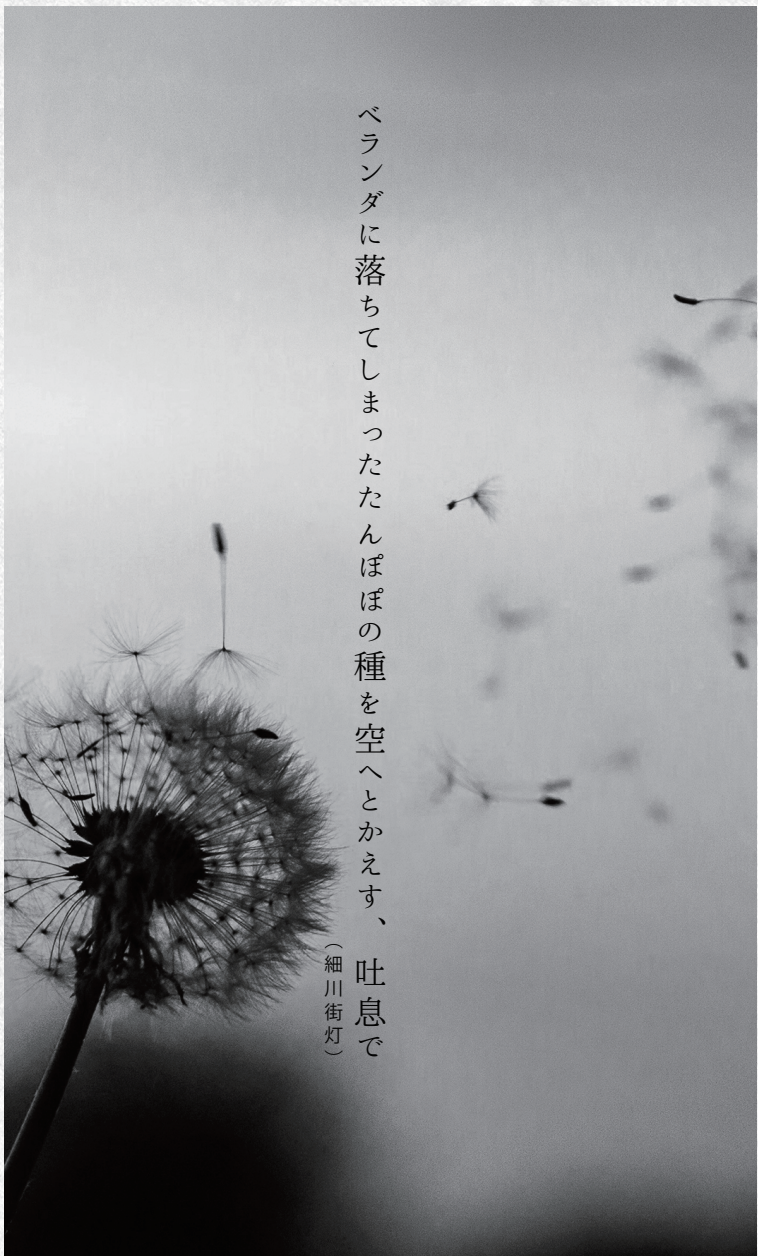
月刊 うたらば

2019
8

今月のテーマ

種

珍しく複数作品採用者が多かった今回。テーマからイメージを広げるのが意外と難しいお題だったのかもしれない。そんな「種」から芽生えた三十三首の作品たちを、どうぞお楽しみください。



ベランダに落ちてしまったたんぼの種を空へとかえす、吐息で

(細川街灯)

後の世にきみと残せるものも
なく一途に落ちる線香花火

(琴平葉一)

諦めを感じる上の句に続く「一途に落ちる線香花火」に何ともいえない哀愁が漂う作品。「後の世にきみと残せるもの」が何なのか、具体的に書かないことで生まれた余白が読者の想像を掻き立てます。線香花火を持つ唐突な終わりのイメージも寂しさを強調するツールとして効いていますね。

うれしき、とよばれる種類の
感情にメロンソーダを父母と
飲む

(太田宣子)

メロンソーダというやや非日常的な飲み物を少しはかみながら飲む父母の姿が思い浮かびました。普段はしないようなことを共有する喜びが、上の句の表現に結びついているのでしょう。幸せを形にしたような、優しさを感じる一首です。

さようならいい夏でした置き
土産みたいな種をくれる朝顔

(風花 栗)

種とは花開いた朝顔が結実した結果の産

物。その達成感に主体が過ぎた夏を掛けた合わせた表現として「さようならいい夏でした」がとても効いている印象でした。緑色からゆっくり乾いて茶色くなり、パラパラと落ちる朝顔の種。夏の名残りを手にして、自らの夏を振り返る主体の姿に爽やかさを感じます。

芽のでない種でした でも
待っている間はとても幸せで
した

(ともえタ夏)

幸せ、と結句で書きながらも読後感として寂しさが漂っているのが魅力的です。期待して待っている間が一番楽しい、という話によく耳にしますが、その期待が叶わなかったときに納得できるのかどうか。過去形で表現することで今の主体の気持ちとは分離されているところもポイントですね。

絶滅の種のまま海の深く深く
無名の魚でいられた日々よ

(須磨堂)

大や猫はもちろん馬、鯖、ミジンコまで。そもそもすべての生き物に名称はなくて、人間が勝手に名付けたということにハッと

させられた作品。人間に見つかることなく「無名の魚」でいる生物は標本のためにと捕獲される危険にさらされることもなく生きていく。科学の力で人間の行動範囲が広がることで他の種にとっては侵略となる可能性があることを思い知らされます。

ベランダに落ちてしまったた
んぼの種を空へとかえす、
吐息で

(細川街灯)

たんぼの種は土の上に落ちないと命をつなぐことはできません。見落としてしまうほどの小さな綿毛に気付けて、拾ってそっと空へと戻す。それは命を救う行為であって、命を壊さないための気遣いが「吐息」という単語に表出しているように感じました。弱い存在ほど丁寧に扱う。主体の優しさがじんわり伝わってくる一首です。

いい女みたい髪をかき上げ
る仕種をしても金八になる

(澤那本気子)

結句の破壊力にやられました。「金八」が固有名詞であるため元ネタを知らない人まったく通じない作品であることは否めま

表紙フォト短歌のカラー版やバックナンバーは公式サイトにてご覧いただけます。

作品の投稿も常に受付中！詳しくはサイトの募集要項をご確認ください。

短歌 × 写真のフリーペーパー『うたらば』公式サイト：<http://www.utalover.com/>

🔍 うたらば

せんが、絵がイメージできる人には結句のザンネン感が強烈に効いてきます。四句目までのいい女感が強ければ強いほど、金八への落差が大きくなるのも面白いです。

をぢさんが種も仕掛けもない
ゆびでつぎつぎ猫をとりこに
します

(有村桔梗)

そういうおじさん、たまにいますね(笑) たくさん猫を従えている不思議なおじさん。普段から餌をあげているとか、何らかの理由があるはずですが、事情を知らない主体から見ると「種も仕掛けもないゆび」「をぢさん」という仮名遣いもこの景の描写に見事にフィットしていますね。

「おとうさん。ピタゴラザウルス
つくつてよ」NHKが新種を生
めり

(袴田朱夏)

自分の知っている情報を組み合わせる新しいものを生み出す。そんな子供の特性を巧みに掬い取った作品。ピタゴラといえはピタゴラスイッチ。自分が好きなものを組み合わせた子供の頭の中にはとんでもな

点の良さが際立っていました。

人間は絶滅危惧種ではなくて
私の命はトキより軽い

(中嶋港人)

命はすべて平等に尊いはずで、絶滅危惧種だから大切にしようという考え方自体がおかしいのですが、トキの繁殖のニュースなどが流れると、命をより重く扱っているような印象も受けます。絶対にそんなことはないのに、言い切られるとそうかもしれな

いと思わされるのが不思議ですね。
他には以下のような作品を採用させてい
ただきました!

菜種から油を絞出すほどの努力が
実らないこともある

(澤那本気子)

黄泉からの里帰りを待ちきれなく
て種子島宇宙センターへ行く

(淡海わか)

鳴かぬのはそういう種類ということ
で可愛がることにするホトトギス

(ともえ夕夏)

あれだけの星があったら神様が飛ば
したスイカの種もあるはず

(岩倉日)

くキラキラした恐竜が描かれていることで
しょう。親目線で状況を冷静に分析した下
の句も面白い表現でした。

好きよりもランチパックの種
類とかそういう話を君とはし
たい

(岩倉日)

個人的にもすごく共感の高かった作
品。恋人との会話が「好き」だけになって
いるのは意外と危険で、「好き」以外の会
話で好きが持続する関係のほうが健全だと
僕も思うんですね。具体物として登場す
る「ランチパックの種類」も適度な生活感
があって言葉遊びにセンスを感じました。

異種という壁乗り越えて結ば
れた愛の子どもを雑種と呼ぶ
な

(関根裕治)

「雑種」という呼び名はあくまでも人間
の都合で、「純血種」に対しての呼称とし
て生まれたもの。雑種が生まれるために
「異種」という壁を乗り越えないといけな
いと指摘した着眼点にやられました。最近
はネガティブイメージを回避するために

百舌鳥の声ひとときわ高く聴く朝に
迷いの種をひとつ断ち切る

(もなか)

もう誰も見向きもしなくなつた頃
アボガトの種はそつと芽を出す

(西鎮)

悩みの種ほくに預けてくれないか春
には花にして返すから

(関根裕治)

「種」の字に「重」ありそれは生命
の重さと愛を重ねたあかし

(関根裕治)

おのれよりひとのこころのよく見え
て李の種のちひさく尖る

(太田宣子)

ゴーヤーの種をこつそりくりぬい
てできたソファーに腰かけたいな

(木村奏菜)

照明を消してこぼれる溜息はすべて
が歌の種だと思ふ

(千原こはき)

鳥たちが種をはこんで芽を出すの
遠いだけかの呼応と朝焼け

(青野 絢子)

ハネムーン帰りの人が種を蒔くよ
うに手渡すマカダミアチョコ

(風花 雫)

「ミックス」と呼ばれたりするそうです。

手品師が客から借りた万札を
持つてどこかに消えるマジッ
ク

(たろりずむ)

意表を突かれて思わず吹き出しました。
気持ちよくツツコミを入れさせてくれる短
歌は、読者を作品世界に巻き込んでいくと
いう点で良い短歌ですね(笑)。もはやマ
ジックでもなんでもないただの窃盗。あ、
でも手品師がどこかに消えたところはマ
ジックなのか。飄々と面白い景を描く作品。
清々しさすら感じます。

種なのにピーと呼ばれて柿で
すらない相方が種と呼ばれる

(若杉有紀)

形状が柿の種に似ていることが由来の
「柿の種」。おかし本体を「柿の種」と呼ぶ
ところに、本物の種であるピーナッツが
入ったことで起きてしまった捻れを、ピー
ナッツ視点の悲しみとして描いていること
が面白かったです。身近な「柿の種」の
中でまさかこんな悲劇が起きていたとは。
「柿の種」を詠んだ投稿作品の中でも着眼

種明かしされても意味が分からな
い手品みたいに世界は複雑

(堀真希)

犬と猫どっちが好きと聞かれても
種類や調理法にもよるし

(たろりずむ)

雲がない夏日に種田山頭火の句碑を
見かけて声にしている

(雨虎俊寛)

ひとを恋ふかなしみはつかかりかり
と奥歯で砕いてゆく柿の種

(有村桔梗)

スイカバーに本物の種 さつきか
ら君が好きって言うてるでしょう

(葵の助)

系統樹の豊かな枝葉 僕たちはヒ
トだよ 揺るがない共通点

(田中ましろ)

たろりずむさん、二首目のボケも好きー雨
虎さん、種田山頭火とききましたか!こはぎさ
ん、その種で歌詠んでください!次回テーマ
は「外」。ご投稿よろしくお願ひします!

次回テーマ

外

外国、外野、屋外、アウト
ドア、外遊、想定外、営業
時間外、大外刈り、「外」
に関する短歌のご投稿、お
待ちしています!

9/7 (SAT) 締切